

No. 605

一、池田前首相死去

東大病院で喉頭、食道ガンで手術を受けて入院していた池田前首相は八月十三日午後〇時二十五分ガン摘出後の肺炎と心臓衰弱で六十五才の生涯をとじました。

昨年九月国立ガンセンターでガンが発見されて首相の座を佐藤現首相にわたした池田さんは、安保騒動でとげとげしい世相に「寛容と忍耐」を看板に、政治姿勢を正すことは「低姿勢」を用いて、戦後日本の経済再建に尽力、高度経済成長を推進してきました。

病いに倒れても成長政策のひずみを気にかけていたのでした。

十八日党葬はしめやかな中に盛大に行なわれました。それにしても大野さん、河野さんについて今、池田さんという戦後政界の大立者を失いました、自民党の派閥再編成はこれですます複雑な様相を呈してきました。

カメラ・スケッチ

一、津軽の夏

「みちのく」東北の北端青森県津軽は、いま祭りで華やいています。りんごの色づきはじめる八月、実りの秋を前に津軽の人たちは夏のひと時のつかの間ながらも労働から開放されます。祭りは津軽の心であり、豊じょうへの祈りであるでしょう。

津軽平野の入口、黒石は有名なよされ祭りを前に町中が気もそぞろ、あちこちの家から陽気なタイコと三味の音がきこえてくればもう祭りも間近か。

津軽文化の発祥の地十三、ここも夏祭りが近づくとも都会に出でいた若者たちがいっせいに帰ってきます。さいはての地十三の人々は夜のふけるまで哀調の砂山踊りでさかえた者しのでぶのです。

こうして弘前のねぶたで津軽の夏はクライマックスになります。

ねぶたが終われば北国津軽の夏は終わりをつけるのです。

野づらには豊作を祈願する木にかかったムシもやっと色あせ、本格的な秋風が津軽に吹き渡り、収穫の時はもう真近かとなるのです。